

一人ひとりが見つけた、古河の暮らしの良いところが集まって「みんなの古河の魅力」になっていく



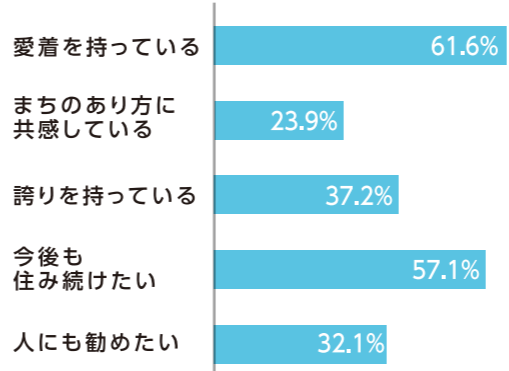
あなたなら「こがでくらすと」の続きはなんと答えますか。それは言葉だったり、モノだったり、風景だったりするかもしれません。目指すのはみんなの「こがでくらすと」が集まって、他のまちにはない魅力にあふれたブランドになっていくこと。マークの「こ」の中に、あなたならどんな古河の暮らしの魅力を入れますか。

ブランディングの方向性は・・・

愛着も誇りも持てるまちへ

古河市民のシビックプライド

アンケート調査結果 回答数:1,797人



ブランディングを進めるに当たり、現状把握のアンケート調査を行いました。その結果、市民の皆さんの市への愛着は高いものの、誇りやまちのあり方への共感、人に勧めたい意向は低いことが分かりました。これからの古河市のブランディングに必要なことは、このギャップを埋めていくことです。

皆さんの心の中にある愛着をもっと育て、住んでいることの誇りにつなげて市外の人にも発信していく活動を皆さんと共に進めていきます。

まちの魅力に改めて気付くきっかけとして・・・

みんなで作るロゴマークを

古河の「こ」をカッコとして活用し、その中に一人ひとりが思うまちの魅力を入れ込み、互いに伝え合えるようにデザインしました。

「こがでくらすと」の言葉でつながり、皆さんの思いと一緒に育っていくロゴマーク。それぞれの思いに合わせて選べるように、6色のカラーバリエーションも用意。今後はお店やまちのさまざまな場所で、自由に使っていただけるようにしていきます。



推奨カラーの6色



竹村さん
(40代/会社員)
こがキラphotoクラブ3・4期生。休日は主に子ども(3人)の野球の保護者活動。市公式インスタやkoga note等、子育て家族に向けた古河の魅力を積極的に発信。



鯉沼さん
(10代/学生)
市内の中高一貫校にて学業に励む。昨年12月に開催された「まちの魅力を発見するワークショップ」に参加するなど、まちづくりに興味を持ち始める。



石川さん
(20代/フリークス店員)
地元古河のセレクトショップ勤務。この店員になるのが幼い頃から夢だった。お店のブログやインスタでの情報発信にも力を入れている。趣味はロックフェスや食べ歩き。



谷村さん
(62歳/古河市長)
平成7年、古河市議会議員に初当選。その後、市議会議長を経て、平成28年12月より現職。「華のある都市(まち)古河」を目指し、官民連携のまちづくりを推進している。

市長：そうですね。そこで今回、このロゴマークを作りました。古河の「こ」がカッコになっていて、「こがでくらすと」に続く言葉を市民に考えてもらおうと。

石川さん：みんなで作るロゴマーク？

市長：はい。「古河で暮らすと、こんないいことがある」という一人ひとりの思いを表現してもらい、それを集めてポスターや動画にしたり、ワークショップをしたり。市民の皆さんと一緒につくっていただければと。

鯉沼さん：このロゴマークを使って、このまちの良さを市民が再認識し合うということですか？

市長：狙いはズバリそこにあります。

石川さん：私の仕事でも同じですが、情報発信をしてファンになってもらうのが大切ってことですよね。そのためにまず自分を知ること。

竹村さん：共感してもらおうのが大事ですね。

市長：まさに、その通りです。そういう流れをこのロゴマークでつくりたいと思います。

市長：いま市では、古河の良さをもっと感じてもらうためのブランド戦略を進めています。そこで、皆さんにお聞きします。「古河の魅力は」と言われてどう思いますか？

竹村さん：先ほどアンケート結果を見て思ったのですが、確かにこのまちに愛着はあるし、住み続けたいとは思いますが、誇りみたいなものは・・・

石川さん：桃まつりなどは有名ですけどね。

鯉沼さん：私は少し前からまちづくりに関心があるので、そもそもブランド戦略って、まちづくりにつながるものですか？

市長：間違いなく、その一環ですね。古河の魅力が広く認知されれば、訪れる人も増えるでしょうし、住みたいという人も増えるかもしれません。でも現状では、このまちの何をアピールすればよいか、私たち市民がよく分かっていないんですね。

竹村さん：私は写真を撮ってるから分かるけど、古河には夕日がきれいな場所とか、名も無き名所がたくさんあるんですけどね。



「古河の魅力は」って
言われてどう思う？

座談会

古河市民 × 古河市長

@ &FREAK.